

## 天塩町地域おこし協力隊 2019年4月～6月活動報告 地域プロデューサー 久保 綾香

4月～6月は大きく分けて以下の4つの活動を行った。

1. ダンス指導
2. イベント等の実施・実施支援
3. イベント・セミナー・研修等を通じた情報収集
4. その他

各項目の具体的な内容については以下の通り。

### 1. ダンス指導

4月から6月にかけて、ヒップホップダンス教室や新しく立ち上げたストリートダンスサークルでダンス指導を行った。

#### (1) ヒップホップダンス教室

これまで「キッズ」クラスと「初級」クラスのダンス教室を実施してきたが、初級クラスに参加する生徒の中でも年齢や経験などに幅があるため、初めてダンスに挑戦する人がじっくり学べるよう、「初級」クラスを「入門」クラスへと変更した。初級以上のレベルのクラスについては、6月1日に設立したストリートダンスサークルでその機会を作ることを検討している。

実施したダンス教室は以下の通り。

- キッズクラス (5/28, 6/26)
- 入門クラス (5/28, 6/26)



6月26日実施のキッズクラス



6月26日実施の入門クラス

#### (2) ストリートダンスサークルでの指導

2019年6月1日付で、天塩町のストリートダンスサークル「44° N (フォーティーフォーデグリースノース)」を設立した。これまで毎月1回のヒップホップダンス教室を実施してきたが、町民が主体となってダンスの練習ができる場をつくりたいと思い、サークルを立ち上げた。

サークルでの最初の取り組みとして、鏡沼しじみまつりのステージ出演に向けていくつかのグループを作り、振り付け・練習指導を行った。今後はサークル会員が自主的に活動をしていけるよう、その後押ししていければと考えている。

## 2. イベント等の実施・実施支援

天塩町内外で実施された以下のイベント等の実施・実施支援を行った。

- 昔の遊び体験フェスタ@天塩川歴史資料館（5/25、6/22）【実施支援】
- 「全国よりあい×きた北海道協力隊ネットワーク（KKN）研修会」@士別市朝日町（6/29-30）【実施】

天塩かわまちづくり協議会主催の「昔の遊び体験フェスタ」は、天塩川歴史資料館の特別展示室で毎月1回開催されるイベントの一つであり、5月は「昔の遊び体験」、6月は「昔の遊び体験」と「折り紙教室」をテーマとして開催した。久保は以前、天塩町内のイベントで折り紙教室を開催し天塩町のマスコットキャラクターである「てしお仮面」を折り紙で製作する機会があったことから、今回折り紙教室にてインストラクターを務めた。

「全国よりあい×KKN 研修会」では、日本各地で活動する地域おこし協力隊のための国内最大級のカンファレンスである「全国よりあい」（全国よりあい実行委員会主催）と、きた北海道協力隊ネットワーク主催の地域おこし協力隊研修会が同時開催され、全国の協力隊の様々な活動事例やそこから得られた知見などを北海道内の協力隊と共有し、意見交換を行った。久保は今回、KKN 事務局として「全国よりあい」側との調整や KKN 研修会の企画・運営等を行った。

1日目の「全国よりあい」では、全国で活躍する地域おこし協力隊が東京のメイン会場でスピーチを行い、インターネットテレビ電話で全国各地の会場と繋げ、そのスピーチを全国一斉に配信・視聴し、スピーチ終了後は各地域会場で意見交換を行った。2日目の KKN 研修会では、イベント開催地である士別市朝日町の地元企業の方から地方創生の取り組みに関する話を伺い、また同町で閉院した病院をコミュニティスペースとして活用している方から話を伺うなど、朝日町のまちづくり・まちおこしの取り組みについて学んだ。現在朝日町では地域おこし協力隊などの外部人材は少ない状況にあるが、それでも人口約1,300人の町に、まちおこしの取り組みを主体的に行う地元民間企業や町民がいることに驚かされた。

今回、「全国よりあい」の発起人である宮崎県日南市の地域おこし協力隊から久保が所属する KKN に対し「全国よりあい」北海道会場の運営の依頼を受け、KKN として初めて全道（・全国）的なイベントを開催することができた。また、全国でまちづくり・まちおこしに取り組む様々な関係者と繋がることもできたことも、大変大きな収穫であった。



昔の遊び体験フェスタの様子（てしお仮面の折り紙づくり）



全国よりあいの様子（スピーチ視聴）



全国よりあいの様子（グループディスカッション）



KKN 研修会の様子（閉院した病院を活用したコミュニティスペースの見学）

### 3. イベント・セミナー・研修等を通じた情報収集

参加したイベントやセミナー、研修等は以下の通り。

- 地域づくり（地方創生・地域再生）のための PCM 研修@東京都神谷区民センター（4/27-28）
- きた北海道協力隊ネットワーク（KKN） 主催 地域おこし協力隊研修会@芽室町（6/5-6）

PCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）は、様々な意見を具体的なプロジェクトに変えて、実施から評価までを一貫して管理運営する各ツールが統合された手法であり、主に国際協力の業界で活用されている手法である。前職で、国際協力の現場での活用を想定した PCM 研修を受講したことがあったが、今回は国際協力の PCM ではなく、日本の地域づくりのために再構成された PCM を学ぶことができるということで参加に至った。

定期的開催されている KKN 地域おこし協力隊研修会に、協力隊・主催事務局として参加した。今回の研修会は芽室町で開催され、芽室町の開拓精神溢れる「人」やそこでの取り組みを知ることを通じて、自身の所属地域での活動にその学びを役立てることを目的として開催された。

研修会では、芽室町外から芽室町に移住しこだわりや思いを持って農業を営んでいる若手農家の方から話を伺い、また芽室町発祥のスポーツであるゲートボールを実際に体験し、若



い世代への普及方法について検討した。研修には芽室町長や役場職員の方にもお越し頂き、町全体でまちづくりやまちおこしに力を入れている印象を受けた。



PCM 研修の様子（グループワーク）



PCM 研修の様子（実習のモデルと類似した商店街の散策）



KKN 研修会（芽室町）の参加者



同左研修会での農場見学の様子

#### 4. その他

- 「インバウンド実務主任者」資格の取得（2019年5月取得）
- はまなす学園大学での講演（地域おこし協力隊活動についての発表）（6/14）
- 蝦夷丹生倶楽部発足式・試食会への参加（6/15）
- かわまちづくり協議会主催 SNS 活用ワークショップへの参加@天塩町役場（6/28）

インバウンド対応強化に向けた自身の能力向上のため、「インバウンド実務主任者」の資格試験を受験し、無事合格、資格を取得した。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、日本の外国人旅行者数はますます増加していくことが見込まれる。またそれに伴い、地方部に訪れる外国人旅行者も増加すると想定されている。こうした変化に対応できるよう、インバウンド対応やマーケティングにおいて必要な知識を体系的に学習した。今後町民向けにインバウンド対応に関するセミナーなどを実施したいと考えている。

以上

# 天塩の歴史、文化 積極活用を

## 豪州の大学生 観光戦略提案

【天塩】観光学の研修で昨年夏に天塩を訪れたオーストラリア・パース市のマードック大の学生が、天塩の観光地としての開発戦略をまとめた。歴史や文化の活用などを提案しており、翻訳された研究提案書が町内の道の駅でしおや町のホームページで公開されている。（福田謙平）

同大の学生11人は昨年7月、4泊5日の日程で天塩を訪ね、観光を分析。今後5年間で町が取り組むべき施策を、分かれて町内を巡り、イベ47と30の2冊の研究提



天塩の観光をテーマにマードック大の学生がまとめた研究提案書

### 昨夏訪町の11人 町HPなどで公開

提案書にまとめた。

提案書は、観光資源として地元でとれる魚介類や美しい風景を挙げる一方、町へのアクセスの悪さや宿泊施設の収容人数が限られていることなど短所も指摘。野穴住居跡の川口遺跡の見学、厳島神社例大祭の神輿担ぎ体験を踏まえ「オーストラリアでは先住民のアボリジニの文化を生かした観光の形態がある」と紹介している。

その上で天塩でも歴史や文化を積極的に活用するよう提案し、「他地域と差別化するための独自性を生み出せる」と結論つけた。このほか、町の通りを花壇やアートで彩る「ストリートアート」、天塩川河川公園での食料品市場開催などを提案した。

町域おこし協力隊員として国際交流や情報発信業務を担当する久保綾香さんは、同大の研修に同行し提案書を翻訳。「アイヌ文化や歴史に非常に関心が高かった」と話す。町は今後、提案書を町の観光振興の参考にする考えだ。

2019年4月5日(水) 北海道新聞朝刊(留萌・宗谷版)に掲載